

地業工事

1. 砂・砂利・割ぐり・捨てコンクリート地業

Table with columns: 地業名, 仕上がり厚さ(mm), 施工範囲, 備考. Rows include 砂利, 砂利, 割ぐり.

○ 捨てコンクリートは厚さ50mmとし、設計基準強度は150kg/cm²、スランプは15cmとする。施工範囲は(基礎、基礎梁、基礎スラブ)下とする。

○ 直接基礎 (有・無)

Table with columns: 基礎の根入れ深さ(m), 長期設計耐力(t/m²), 短期設計耐力(t/m²), 備考. Rows include SGL-11.05, SGL-7.25, SGL-.

2. 既製コンクリートぐい地業・鋼ぐい地業 (有・無)

Table with columns: ぐいの種別, ぐいの径(mm), ぐいの先端位置(m), ぐいの長さ(m), 長期設計耐力(t/本), 短期設計耐力(t/本), 備考. Rows include PHC杭, PHC杭.

- ぐいの先端位置は地盤状況、ぐいの施工状況等により変更することがある。
○ ぐいの継手は(なし)とする。
○ ぐいの先端の形状は(開放型)とする。
○ ぐいの設置工法は(セメントミルク工法)とする。

3. 場所打ちコンクリートぐい地業 (有・無)

Table with columns: ぐい寸法・形状, 掘削深さ(m), 長期設計耐力(t/本), 短期設計耐力(t/本), 備考. Rows include SGL-, SGL-, SGL-, SGL-, SGL-.

- コンクリートおよび鉄筋は「鉄筋コンクリート工事」による。
○ 工法は()とする。
○ 施工に際しては(社)日本基礎建設協会の認定による当該工法の基礎施工管理技術士資格者を施工管理技術者としておねばならない。

4. 特記により行う施工試験 (有・無)

本工事に先だって以下の試験を行い、その結果について監督員の確認をうけるものとする。
○ 地盤の分析、および杭工事にあたり、地盤の性状を把握するために必要と認められた範囲については、地盤調査を行う。

- (1) 地盤の載荷試験 (有・無)
○ 監督員の指示する場所で(2)箇所行う。
○ 試験の最大載荷荷重は(18t、90t/m²)とし、載荷の荷重段階は右記による。
○ 試験方法は土木学会「工費測定法」に準拠して行う。
(2) 埋込み試験 (有・無)
○ 監督員の指示する場所で(30)箇所行う。
○ 試験ぐいは、実長(14m)のものを準備する。
○ 試験ぐいは、本工事に使用してもさしつかえない。
(3) ぐいの載荷試験 (有・無)
○ 図示する場所で()箇所行う。
○ 試験ぐいの径は()mmとし、実長()mのぐいで、本工事に使用するぐいと同仕様とする。
○ 試験ぐいは、本工事に用いるぐいとは異なる。
○ 載荷方法は()とする。
○ 最大載荷荷重は()tとし、載荷の荷重段階は右記による。

鉄筋コンクリート工事

Table with columns: 追加 PC板 軽量コンクリート, 1. コンクリートの仕様, 番号, 種類, 使用区分, 設計基準強度, 所要気乾単位容積量, 所要スランプ, レイアウトコンクリートの種類, 備考. Rows include 1-8.

- ためし練り試験
コンクリート番号(1, 2, 3, 5)のコンクリートはためし練り試験を行う。
○ 単位水量
コンクリート番号(1, 2, 3, 5)のコンクリートは(180kg/m³)以下とする。
(※1) 4階大会議室およびこれに接続するバルコニー、サビス下床コンクリートは番号4を用いる。
(※2) 梁成範囲内の柱コンクリートを含む。

2. コンクリートの材料

○ コンクリート中の養生材の埋込み、アルミリボンの埋込み等については、現場検査結果を参照。

Table with columns: コンクリート番号, 混和材料, コンクリート番号, 混和材料. Rows include 1, 2, 3, 5 and A E 減水剤.

- 混和剤の使用は下表による。

Table with columns: 呼び名, 種別, 継手工法, 使用区分, 備考. Rows include D10~D16, D19~D27, D6, PC鋼リボ線.

- ガス圧工は JIS Z 3881 による(2)種 有資格者として日本建設協会の認定を受けたものとする。
○ 田接工の技量検定付加試験
試験は日本建築学会「田接工作基準Ⅲ ガス田接」に準ずる。

Table with columns: 検査項目, 検査方法, 許容差. Rows include コンクリート表面の凹凸, 鋼筋の位置, 鋼筋の径, 断面寸法.

4. 型わく (有・無)

○ コンクリート打ち上り精度は右表による。
級別はB級とする。

5. 化粧打放しコンクリート (有・無)

○ コンクリート番号(2, 3)のコンクリートは、該当箇所の化粧打放しコンクリートにも適用する。化粧打放し面の型枠はA種とする。

- 6. プレストレストコンクリート(PC)
○ 仕様は日本建築学会建築工事標準仕様書・鉄筋コンクリート工事(JASS 5)19節、および同学会「プレストレストコンクリート設計施工規程」による。
○ 工事に先立ち、PC施工計画書を作成し、監督員の承認を受ける。
○ 施工はPC工事専業者の責任施工とする。

鉄骨工事

1. 材料

Table with columns: 名称, 材質, 厚さ, 使用区分, 備考. Rows include 鋼板, 鋼板, 形鋼, 角鋼管, 鋼管, デッキプレート.

Table with columns: 名称, セットの規格, ボルトの規格, 呼び径, 使用区分, 備考. Rows include JASS系高力ボルト.

(2) 高力ボルト

Table with columns: 名称, 材質, 軸径, 形状・寸法, 使用区分, 備考. Rows include アンカーボルト, 上ボルト, スタッド・シムル.

- アンカーボルトの柱巻均れ土上げは管理協会共通仕様書7.8.2条のA種とする。

2. 高力ボルト接合

- 高力ボルトの製品検査は JIS B 1186 の規定により行う。ただし製造所の品質管理が JIS の規定によって十分に管理されていることが確認された場合は監督員の指示により試験の種類、本数を減らすことができる。
○ すべり係数試験
摩接面のすべり係数試験は現場での施工条件に対応する試験片で行う。
○ 摩接面の処理
すべり係数が0.45以上となるよう行う。
○ 摩接面の処理範囲
接合範囲の各プレート全面とする。

3. 溶接工の技量検定付加試験(※4) (有・無)

Table with columns: 種別, 試験の種類, 溶接姿勢, 試験材の品質, 溶接方法, 検定方法. Rows include A-2, B-1.

- 試験要領は溶接工技量検定付加試験仕様および監督員の指示による。
○ 現場溶接に従事する溶接工については、現場条件に合わせた試験を行う。

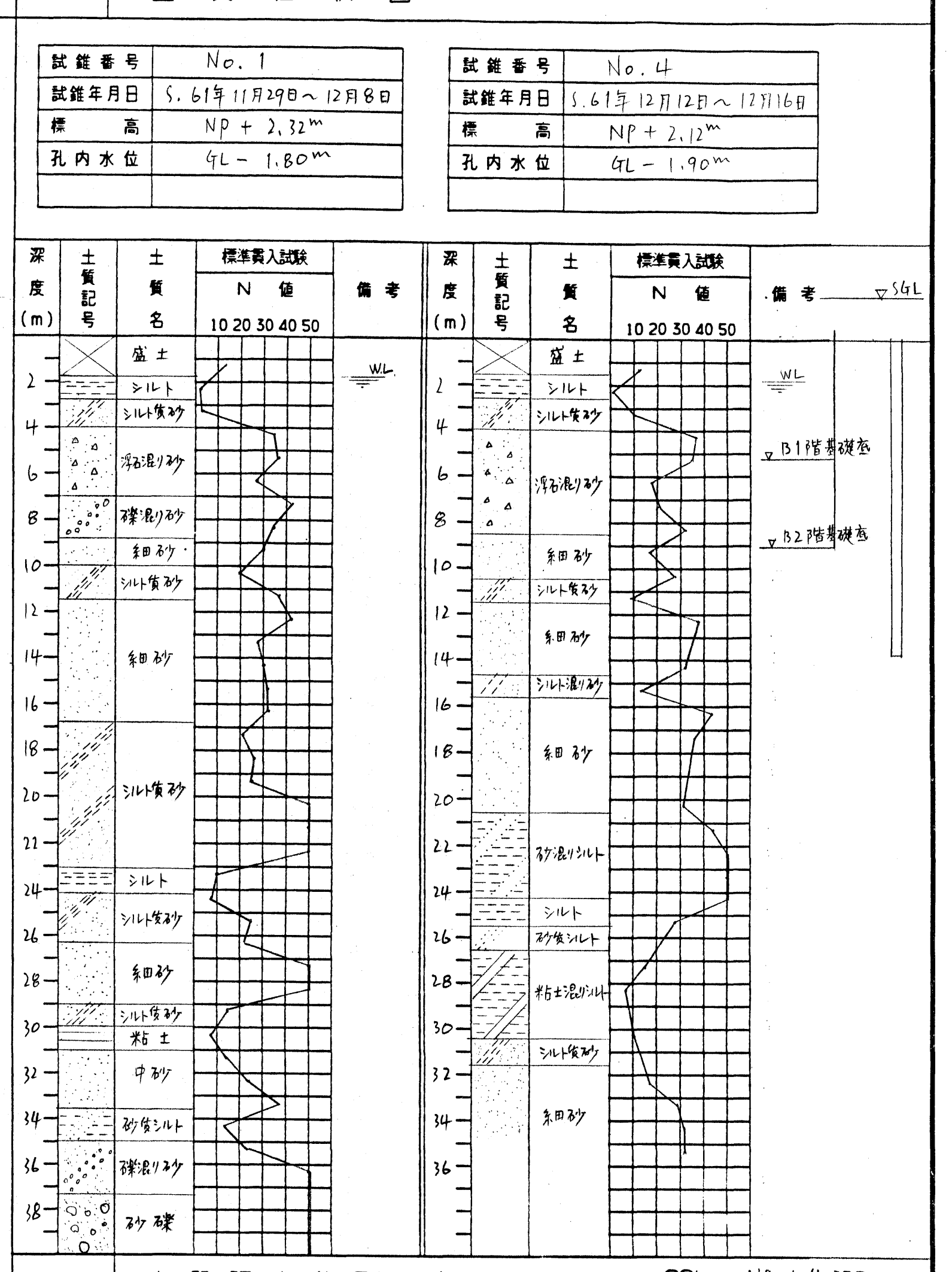
4. 溶接部の製品検査 (有・無)

- 製品検査における超音波探傷検査は分三者である検査専門会社で行う。
○ 超音波探傷検査の検査技術者はNDI-1級有資格者とする。但し、検査現場にて1級技術者の指導のもとに作業する場合は限り監督員が承認した2級技術者によることができる。
○ 超音波探傷の検査は柱-筋を1検査ロットとする。但し柱-筋の突合せ溶接箇所数が600箇所を超える場合は溶接条件の類似する600箇所以内を1検査ロットとする。
○ 現場溶接部については全数検査を行う。

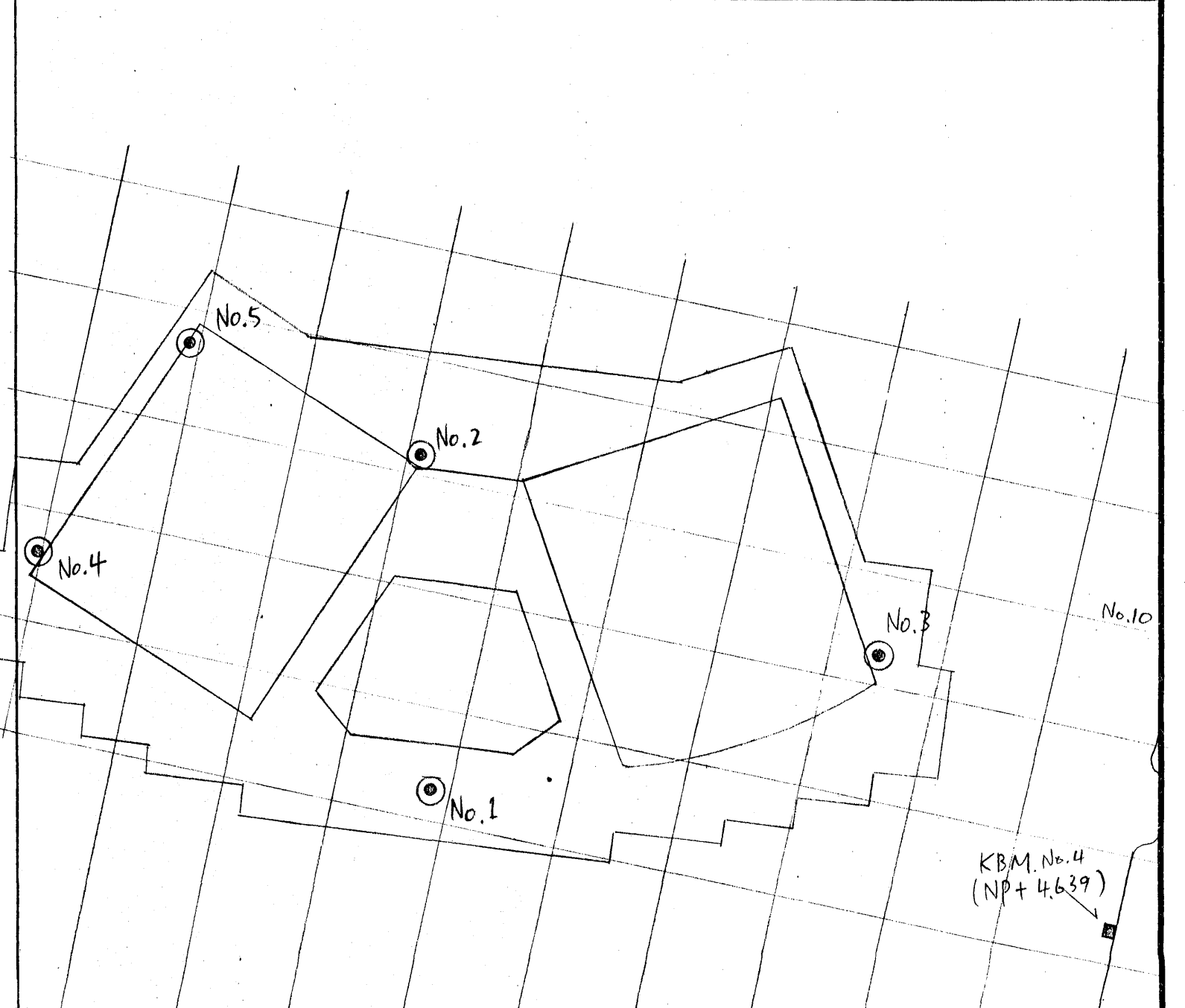
5. 防錆塗装 (有・無)

- 防錆塗装は、工事完了後、素地にシラエは任意で防錆塗料を標準仕様書14.1.3.1により、錆止め塗料は JIS K 5621) 2回塗りとする。
○ 高力ボルト接合部 および 現場溶接部の補修塗装は上記と同等の性能となるよう施工する。
○ 本項防錆塗装が無しの場合でも、設備配管用スリーブの内面には、工事塗料を行う。

土質柱状図



土質調査位置図(縮尺 1/1000) SGL = NP + 4.000



地業工事

砂・砂利・割り石・捨てコンクリート地業

Table with columns: 地業種別, 厚さ, 施工範囲. Rows include 砂利地業, 割り石地業, 捨てコンクリート地業, 砂利地業.

Table with columns: 基礎の埋入れ深さ, 支持地盤の土質, 長期(短期)許容地耐力, 備考. Rows include SGL- 2.5m, SGL- 1.5m, SGL- 1.0m.

既製コンクリート杭地業・鋼杭地業

Table with columns: 杭種, 杭径・杭長, 杭先端位置, 長期(短期)許容耐力, 備考. Rows include PHC 500φ, SGL- 1.5m, SGL- 1.0m.

- 杭の設置工法は(フルボルト)拡大根固め工法とする。
杭の先端部形状は(開放)とする。
杭先端の埋入れの基準は()とし、地盤の状況・杭の施工試験等により上記杭先端位置を変更することがある。ただし、杭長1m以内の増減については精算しない。

場所打ちコンクリート杭地業・場所打ち鉄筋コンクリート地中壁地業

Table with columns: 杭(地中壁)寸法・形状, 杭(地中壁)先端位置, 長期(短期)許容耐力, 備考. Rows include SGL- 1.5m, SGL- 1.0m, SGL- 1.0m.

- 杭(地中壁)の設置工法は()とする。
杭(地中壁)先端の埋入れの基準は()とし、地盤の状況・杭の施工試験等により上記杭(地中壁)先端位置を変更することがある。ただし、杭(地中壁)長1m以内の増減については精算しない。

杭の施工試験(杭打ち試験・掘削試験等) (有・無)

- 図示または監督員の指示する場所で()箇所行う。
試験杭の長さは本杭と同じとする。

載荷試験 杭:(鉛直・水平・引抜き)・地盤 (有・無)

- 図示または監督員の指示する場所で()箇所行う。
杭の載荷試験の場合、試験杭の仕様は()とする。
最大載荷荷重は()または()t/m²、載荷段階は()とする。
反力は()による。

その他の試験

試験・検査に先立ち、標準の埋め方と想定される範囲については標準検査を行う。

表1 試し練り試験

Table with columns: 調査項目, 試験項目, 試験方法. Rows include ワーカーリチ, 強度, 重量, 軽量コンクリートの気乾重量, コンクリートの練り上がり温度, コンクリート中の塩化物量.

- 試し練り試験を行う場合は、各製造所ごと、かつ各調査ごとに行う。
試し練り試験は、コンクリート打込み日より28日以前に、原則として監督員の立会いを受けて行う。

鉄筋・コンクリート工事

鉄筋等 JIS規格品とする。

Table with columns: 種類, 記号, 呼び名(径), 使用区分, 継手, 備考. Rows include 異形棒, 溶接金網, 鉄筋格子.

- ガス圧接工に従事する圧接工は、JIS Z 3881による(2)種有資格者とする。
ガス圧接する鉄筋は同一製造所のものを原則とする。以上の

型枠

- 化粧放しコンクリート用せき板は(樹脂塗合板・普通型枠合板)を用いる。

コンクリート コンクリート番号に○印を付したものは、下記の特記事項のみを規定する。また「印」は規定せずとする。

Table with columns: 番号, 種類, 設計基準強度, 所要スランブ, 単位水量の上乗率, 使用区分, 備考. Rows include 1 普通, 2 普通, 3 普通, 4 普通.

- セメントは(普通ポルトランドセメント)を使用する。
番号(1,2)のコンクリートにはAE減水剤(1種)を使用する。
番号()のコンクリートは、原則として温度補正を不要とする。
高性能AE減水剤の使用(有・無)
使用範囲(コンクリート番号)
減水率または減水量はAE減水剤と比べ(4~5%)または(8~10kg/m³)減とする。
通常の試し練りの他、捨てコンクリートを利用して実機試験を行う。

打込み

- コンクリート打込みに際し、その品質管理のため(主任技術者)は必ず立会わなければならない。
コンクリート打込み量は(30)cm³/時間・合以内とする。ただし(基礎スラブ・基礎梁)は(40)cm³/時間・合以内とする。
外部振動機(型枠バプレート)の使用(有・無)・使用範囲(柱下帯)

検査および試験

Table with columns: 検査項目, 試験項目, 備考. Rows include 鉄筋, 溶接金網・鉄筋格子, セメント, 砂・砂利, 人工軽集骨材, 化学添和剤, 鉄筋の加工および組立ての検査, 圧接工の技量確認試験, 試し練り検査, 荷卸し地点のコンクリート検査, 打込み地点のコンクリート検査, コンクリート打上がり検査.

鉄骨工事

鋼材 JIS規格品とする。

Table with columns: 品質, 使用鋼材の名称, 備考. Rows include SS400, SM490A, STK400, STK490A, S0P-1GA.

- SM490Aの電炉広帯鋼を使用する場合は下記による。
板厚は30mm未満、板幅は300mm以下とする。
使用鋼材は原則として採取による成分分析を行ない、下表の化学成分を満足することを確認する。(%)
C Si Mn P S Cu Cr Sn
0.18以下 0.40以下 1.50以下 0.03以下 0.013以下 0.20以下 0.20以下 0.04以下
機械的性質確認試験(有・無) JISの数値を満足することを確認する。
成分分析および機械的性質確認試験(降伏点、引張強さ、伸び)を行う場合の採取ロットの単位は板厚、板幅毎に50tを1単位とし試験体数は3個とする。ただし1ロットが10tに満たない場合には、係員と協議の上増強することとする。

高力ボルト

Table with columns: 名称, 高力ボルトの種類, わじの呼び, トルク係数値による種類, 備考. Rows include JIS系高力ボルト, トルシヤ系高力ボルト, 溶接部めっき高力ボルト.

- 高力ボルトの製品検査は JIS B 1186 の規定により行う。ただし、製造所の品質管理が、JISの規定によって十分に管理されていることが確認された場合は、監督員の指示により試験の種類・本数を減らすことができる。
摩擦面の地盤係数は すべり係数値が 0.45 以上となるように行う。ただし溶接部めっき高力ボルトを使用する部分は 0.40以上とする。
摩擦面のすべり係数確認試験(有・無) ただし、溶接部めっき高力ボルト使用の場合は行う。
試験は現場での施工条件に適合する試験体で行う。

ボルト・ナット・座金およびアンカーボルト

Table with columns: 名称, 品質, わじの呼び, 備考. Rows include ボルト・ナット・座金, アンカーボルト・ナット・座金.

スタッド JIS規格品とする。

Table with columns: 名称, 呼び名, 形状・寸法, 備考. Rows include 頭付きスタッド.

仮組立 (有・無)

- 仮組立の範囲は(中央横トラス梁)とする。

溶接工の技量検定付加試験 (有・無)

- 試験要領は、溶接工技量検定付加試験仕様により、(工場溶接)・(現場溶接)について実施する。
受験する人数は製作トン数・製作工期等を勘案し決める。
受験者は下表○印の試験を受験し合格しなければならない。また本工事で作業をする溶接方法(手溶接か半自動溶接)は、溶接工技量検定付加試験で合格した溶接方法と同じでなければならない。

Table with columns: 種別(工場溶接), 種別(現場溶接), 試験片材の材質, 備考. Rows include A種, B種, C種(1及び2).

- 試験に使用する溶接棒または鋼ワイヤは、本工事に使用するものと同一とする。
本工事で特殊タブを使用する場合は、技量付加試験を追加する。その場合溶接姿勢は下向を原則とする。

溶接部の超音波探傷検査

- 共通仕様書7-5-9(5)項の超音波探傷検査を実施する技術者は、CIW(日本溶接協会溶接検査認定委員会)で確認を受けた事業所に所属する主任試験技術者または試験技術者とする。
上記検査事業所は、元請業者負担の発注とする。
工場溶接部の採取率は、(10) %以上とする。採取方法は柱1節毎とし、検査ロットは溶接部位毎に構成し、1検査ロットの溶接箇所数を400箇所程度とする。採取はランダムサンプリング方法を原則とする。
現場溶接部の採取率は100%とする。但し監督員の承諾をえて低減することができるものとする。

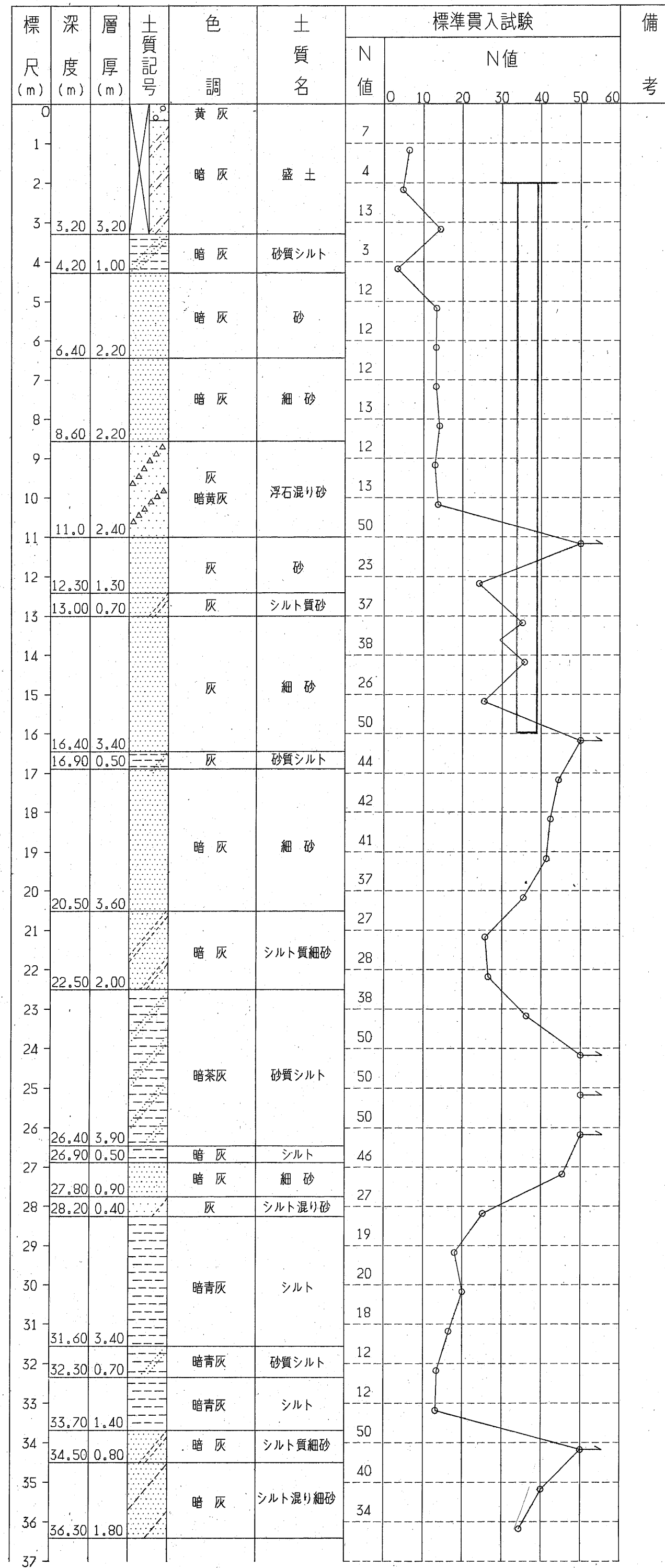
防錆塗装

Table with columns: 仕様, 業地ごしえの種別, 錆止め塗装(工場塗装), 塗装区分. Rows include 1, 2.

鉄骨ベースプレートライン 板厚B.L.=基礎埋込+50とする。(各欄共通)

土質柱状図 SGL=

調査地点 名古屋市熱田区熱田西町1番1号 調査会社名 東建地質調査株式会社
調査年月日 H.3.9.13~H.3.9.19 標高 NP+4.78m 孔内水位 GL-2.10m



SMW山留ソイルセメント配合
* 600φ, セメント280kg (W/C 214) 強度10kg/cm²以上とする。

名古屋国際会議場増築工事 設計 日建設計
特記仕様・土質柱状図 No. 1
縮尺 1/50
係長 係員 設計 平成4年3月31日
名古屋建築局管轄部管轄課 一級建築士 三浦忠誠
登録番号 第47866号

名古屋市建築局 殿

名古屋国際会議場第2期整備地盤調査委託
報告書

平成3年9月

担当者

主任技術者 山田 敬



東建地質調査株式会社名古屋支店

名古屋市南区笠寺町字迫間9番地の2

TEL 052-824-1531 (代表)

支店長 篠田 正雄



1 調 査 概 要

本報告書は名古屋市建築局の御発注により、東建地質調査株式会社が実施した「名古屋国際会議場第2期整備地盤調査委託」の調査結果をまとめたものである。

本調査は、名古屋国際会議場第2期整備計画に伴い、当該地における構造物の設計、施工に必要な地盤資料を得ることを目的としたもので、5箇所、延179mのボーリング調査を行なった。

調査は「契約書」、「名古屋国際会議場第2期整備地盤調査委託設計書」及び「地盤調査委託仕様書」に基づき、監督職員の指示等により実施した。

以下、調査概要を示す。

- 1) 調査件名 名古屋国際会議場第2期整備地盤調査委託
- 2) 調査場所 名古屋市熱田区熱田西町1番1号
(図1-1参照)
- 3) 調査期間 自 平成3年8月28日
至 平成3年9月30日
- 4) 調査内容 ボーリング 5箇所 延179m
標準貫入試験 178回
(表1-1参照)
- 5) 調査担当 東建地質調査株式会社名古屋支店
主任技術者 山田敬二

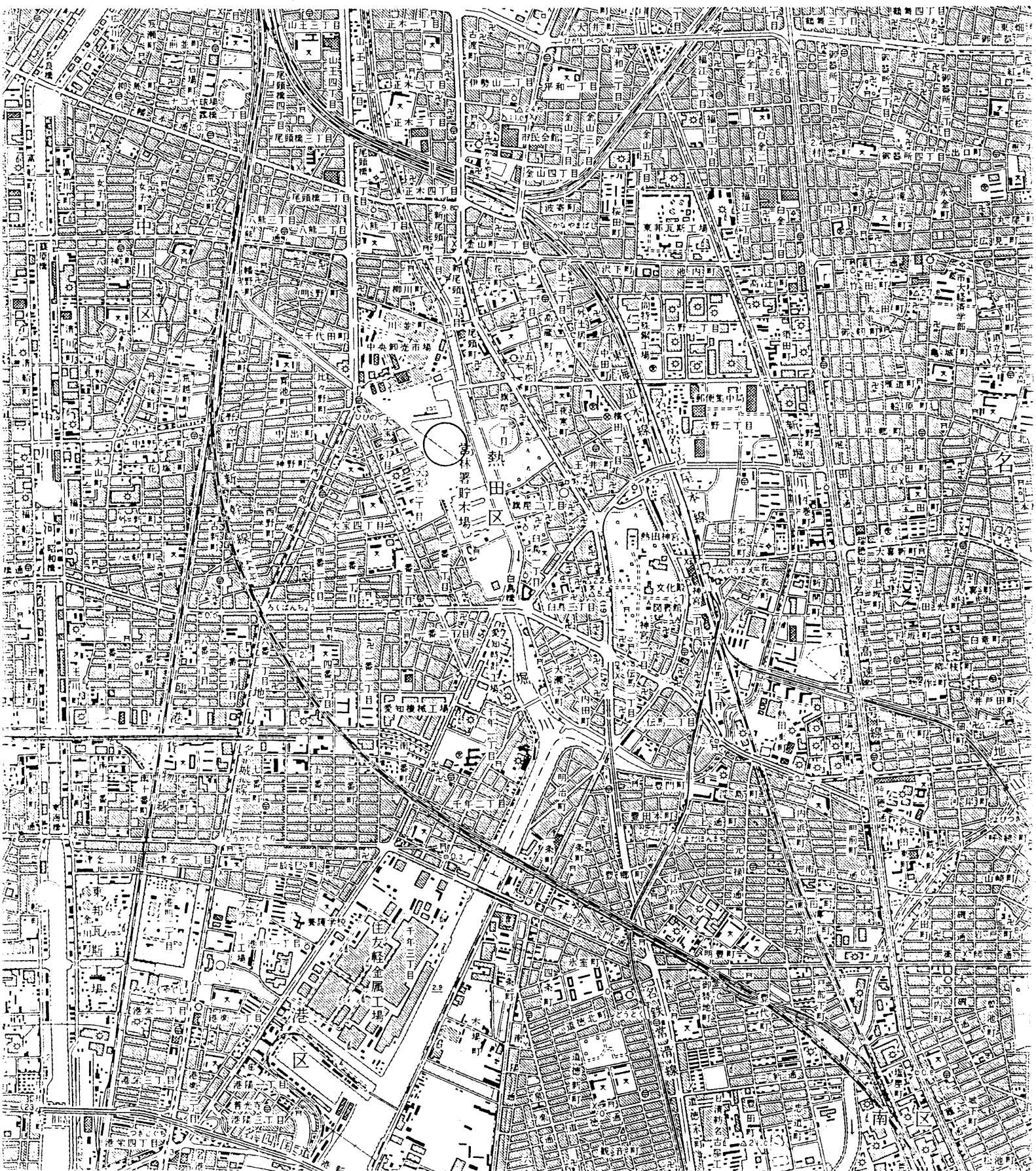
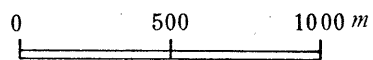


図1-1 調査地案内図 縮尺1/25,000

凡例



○ 調査地

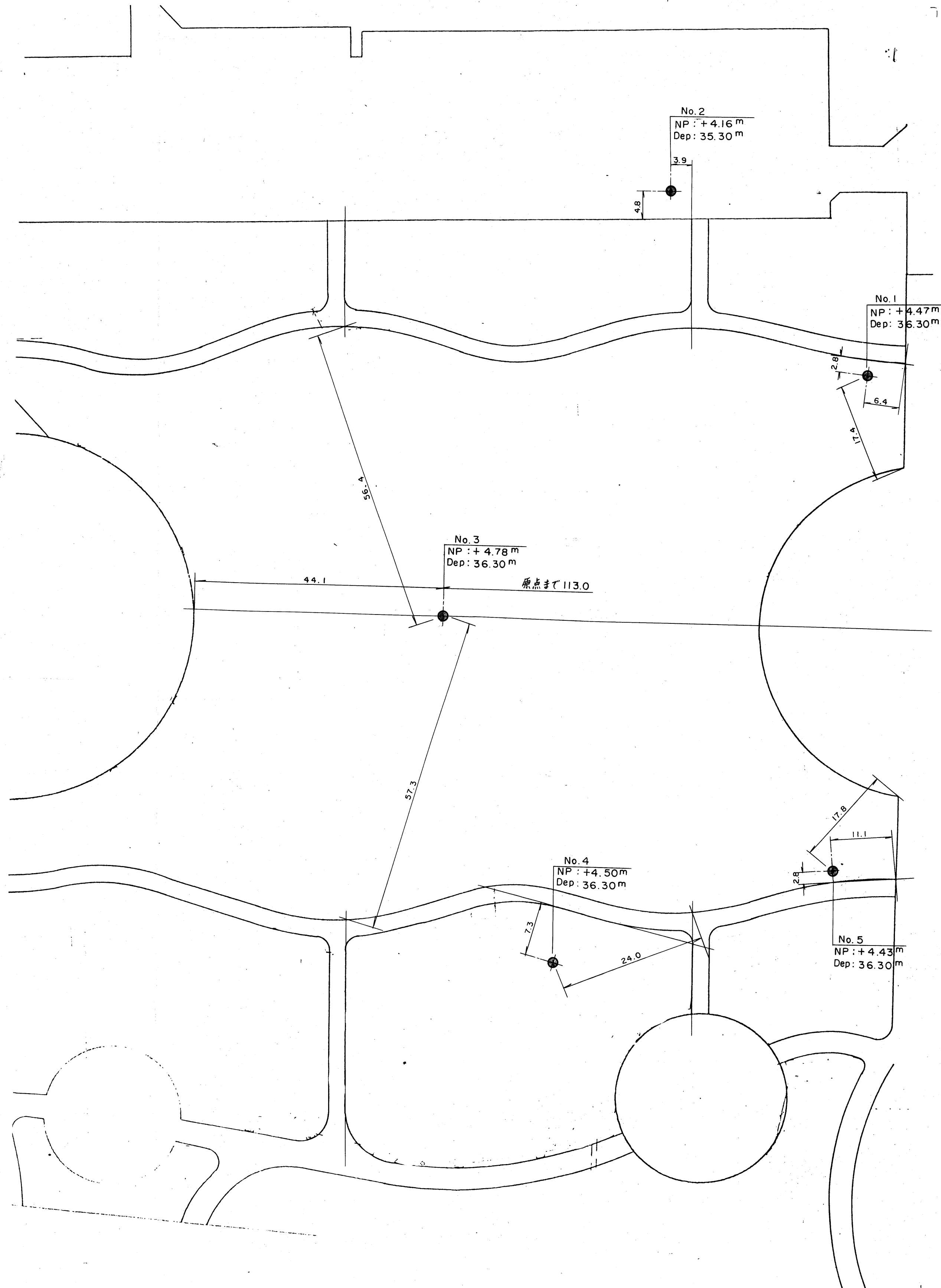
この地図は、国土地理院発行の2.5万分の1地形図「名古屋南部」を使用したものである。

付図-1 調査地点位置図

詳細位置図 縮尺 1/500

凡例

● ボーリング位置

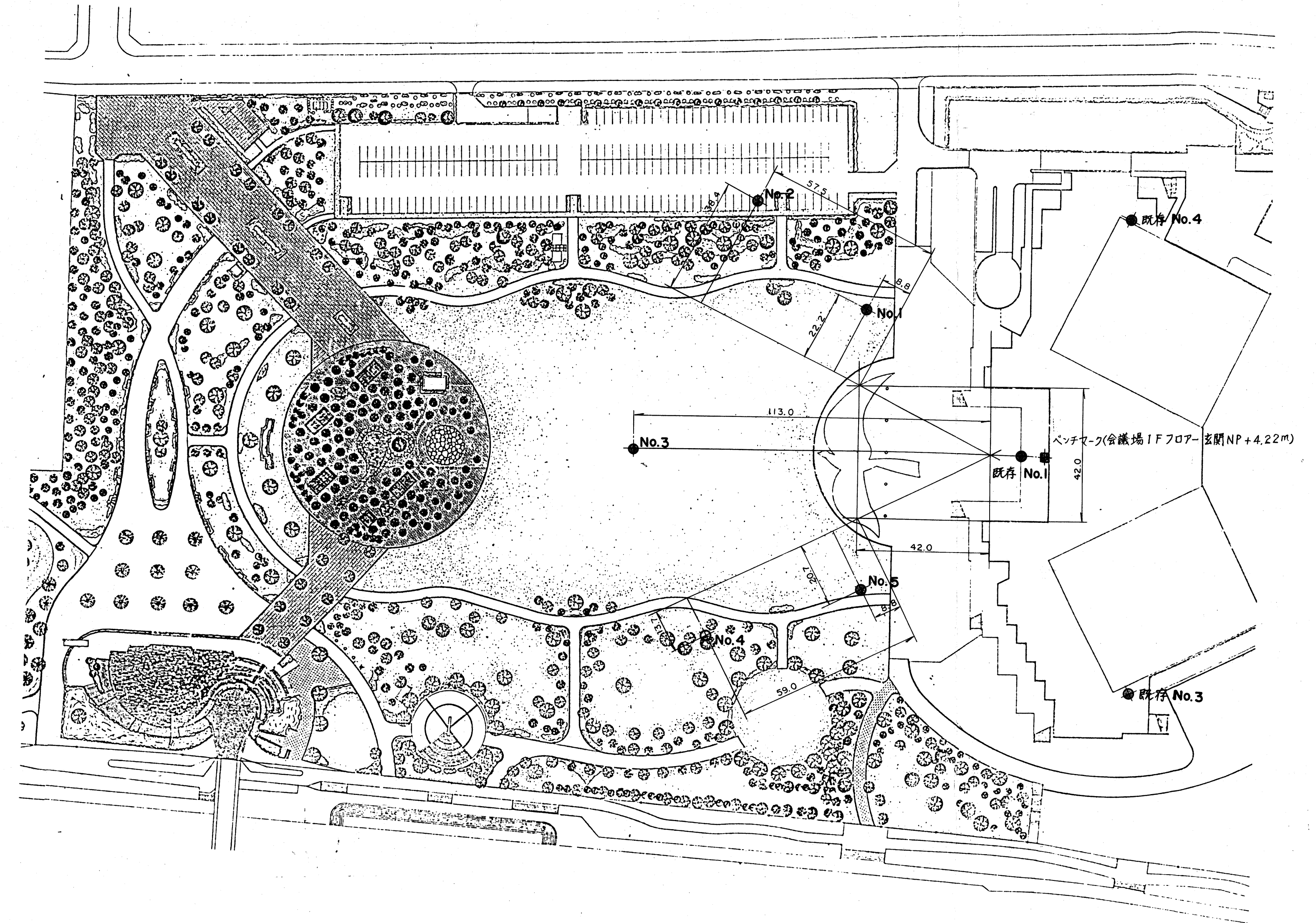


位置図 縮尺 1/1000

凡例

● ボーリング位置

■ ベンチマーク位置



図面名称	名古屋国際会議場 第2期整備地盤調査委託 付図-1 調査地点位置図		
図面番号	全3葉の内 1号	縮尺	詳細位置図 1/500 位置図 1/1000
製作年月	平成3年9月		
製作	東建地質調査株式会社		

土質柱状図 (No.1)

調査名 名古屋国際会議場第2期整備地盤調査委託

調査地 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

調査年月日 平成3年9月6日～3年9月10日

標高 NP +4.47 m

孔内水位 GL -3.60 m

技術者 伊東巳徳

標尺 m	標高 m	深 度 m	層 厚 m	柱 状 図	色 調	土 質 名	観 察	原 位 置 試 験 深 度 m	標準貫入試験						試料		標尺 m					
									深 度 m	N 値 回/cm	10cm 毎の 打撃回数			N 値						採取 方法	採取 深度 m	
											10 cm	20 cm	30 cm	0	10	20		30	40			50
1							-1.0m以浅は砂礫主体 コンクリート片等の瓦礫を 含む		1.00	31	13	6	12							1		
2	1.77	2.70	2.70			盛土	-1.0m以深はシルト質 細砂主体		1.30											2		
							-2.2m付近、300m m程の礫を含む		2.00	50	3	47										
3	1.07	3.40	0.70			暗灰 砂質シルト	砂は細砂～粗砂からなる 腐植物を含む		2.20	8	2	3	3							3		
4							含水量は多い 粒径は不均一		3.30	9	3	2	4							4		
5	-1.13	5.60	2.20			暗灰 シルト混り砂		4.00	9	3	2	4							5			
6							上部、粗砂混る		4.30	7	2	2	3							6		
7							-6m付近、粒状の浮石を 含む		5.00	18	6	6	6							7		
8	-3.53	8.00	2.40			暗灰 細砂	粒径はやや均一		6.00	37	10	13	14							8		
9	-4.63	9.10	1.10			黄灰 浮石混り砂	-8m付近はほとんど粒～ 礫状の浮石からなる		7.00	21	5	6	10							9		
10	-5.63	10.10	1.00			暗灰 礫混り粗砂		8.00	22	8	7	7							10			
	-6.03	10.50	0.40			暗褐 砂質シルト	腐植物を含む		9.00	17	9	3	5							11		
11							所々、細礫を含む		10.00	41	12	13	16							12		
12	-7.33	11.80	1.30			灰 粗砂		11.00	17	4	6	7							13			
13	-8.03	12.50	0.70			淡緑灰 砂質シルト	砂は細砂からなり、全体に 混る		12.00	23	6	8	9							14		
14							含水量は多い		13.00	49	15	16	18							15		
15							部分的に少量のシルトを含 む		14.00	50	17	20	13	6						16		
16									15.26	50	20	26	4	1						17		
17	-12.63	17.10	4.60			灰 細砂		16.00	26	10	8	8								18		
18	-13.13	17.60	0.50			暗青灰 シルト	部分的に少量の細砂を含 む		17.00	50	13	18	19							19		
19	-14.23	18.70	1.10			暗灰 細砂	含水量は多い		18.00	50	15	20	15	6						20		
20							細かい雲母片を含む		19.26	50	13	19	18	8						21		
21	-16.13	20.60	1.90			暗灰 粗砂	含水量は多い		20.00	50	16	18	16							22		
22							-22m付近、少量のシル トを含む		20.28	33	9	10	14							23		
23	-18.03	22.50	1.90			暗灰 細砂		21.00	25	6	7	12								24		
24							火山灰質起源のシルト バサバサしており、粘性 ない		22.30	50	12	18	20	9						25		
25							性状は細砂 ダイレイタンシー現象顕著		23.00	50	9									26		
26	-21.33	25.80	3.30			暗茶灰 砂質シルト		24.29	23	6	9	8								27		
27							全体に少量の細砂を含む		25.09	7	2	2	3							28		
28	-22.83	27.30	1.50			暗灰 シルト	粘性は強い 貝殻片を含む		26.00	46	12	16	18							29		
29							上部、少量のシルトを含 む		27.00	6	9	8								30		
30	-24.03	28.50	1.20			暗灰 細砂		27.30	7	2	2	3								31		
31							均質なシルト		28.00	6	2	2	2							32		
32							-31m付近、砂をパイ プ状に含む		28.30	8	3	2	3							33		
33							-32m付近、少量の砂を 含む		29.00	10	3	3	4							34		
34							所々、腐植物を含む		30.00	7	2	2	3							35		
35	-30.53	35.00	6.50			暗灰 シルト		30.30	10	3	3	4								36		
36									31.00	7	2	2	3							37		
37	-31.03	35.50	0.50			暗灰 砂質シルト	砂は細砂からなる		31.30	18	6	6	6							38		
38									32.00	17	6	6	5							39		
39									33.00	17	6	6	5							40		
40	-31.83	36.30	0.80			暗灰 細砂	部分的に少量のシルトを含 む		34.00	22	7	7	8							41		
41									35.00	28	9	9	10							42		
									36.00											43		
									36.30											44		

土質柱状図 (No.2)

調査名 名古屋国際会議場第2期整備地盤調査委託

調査地 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

調査年月日 平成3年9月10日～3年9月12日

標高 NP +4.16 m

孔内水位 GL -2.10 m

技術者 伊東巳徳

標尺 m	標高 m	深 度 m	層 厚 m	柱 状 図	色 調	土 質 名	観 察	原 位 置 試 験 深 度 m	標準貫入試験						試料		標尺 m					
									深 度 m	N 値 回/cm	10cm 毎の 打撃回数			N 値						採取 方法	採取 深度 m	
											10 cm	20 cm	30 cm	0	10	20		30	40			50
1							上部1.3mはシルト混り砂礫主体 礫量に偏りがある 瓦礫を含む -1.3m以深はシルト混り砂礫主体		1.00	5/30	2	1	2								1	
2	1.46	2.70	2.70			盛土			1.30	8/30	2	3	3								2	
3	0.46	3.70	1.00			シルト	全体に少量の砂を含む 腐植物を含む		2.30	5/32	2	1	2								3	
4							含水量は多い 粒径は不均一		3.32	10/30	4	3	3								4	
5	-0.94	5.10	1.40			シルト混り砂			4.00	10/30	4	3	3								5	
6							上部、細砂多い -6及び-8m付近、粒状の浮石を含む		4.30	15/30	3	3	9									6
7									5.30	33/30	9	11	13									7
8	-4.24	8.40	3.30			暗黄灰砂			6.00	29/30	7	9	13									8
9							礫径2~20mm程度		7.30	31/30	9	10	12									9
10	-5.44	9.60	1.20			暗黄灰礫混り粗砂			8.00	35/30	9	11	15									10
11						灰粗砂	含水量は多い 下部、細礫を多く含む		9.30	29/30	8	9	12									11
12	-7.04	11.20	1.60			暗黄灰粗砂			10.30	15/30	5	5	5									12
13	-7.84	12.00	0.80			灰砂質シルト	砂は細砂からなる 少量の腐植物を含む		11.30	18/30	6	6	6									13
14	-8.34	12.50	0.50			灰シルト混り細砂	含水量は多い		12.30	46/28	13	20	13/8									14
15							細かい雲母片を含む -1.4m付近、粗砂多い		13.28	50/28	15	20	15/8									15
16	-11.54	15.70	3.20			灰細砂			14.00	43/30	12	15	16									16
17	-12.34	16.50	0.80			灰シルト混り細砂	所々、シルトの薄層を挟む		14.28	25/30	8	8	9									17
18							細かい雲母片を含む 部分的に粗砂を多く含む -1.9m付近、少量のシルトを含む		15.30	50/28	10	17	23/8									18
19									16.00	50/26	14	17	19/6									19
20									17.28	37/30	10	10	17									20
21	-17.14	21.30	4.80			暗灰細砂			18.00	44/30	12	14	18									21
22							火山灰質起源のシルト バサバサしており、粘性ない ダイレイタンシー現象顕著 性状は細砂		19.30	48/30	14	15	19									22
23									20.00	50/21	17	28	5/1									23
24	-21.54	25.70	4.40			暗茶灰砂質シルト			23.30	50/19	19	31/9										24
25									24.21	21/30	5	5	11									25
26	-22.24	26.40	0.70			暗灰シルト	粘性は強い 貝殻片を含む		25.19	50/23	21	22	7/3									26
27							-27.7m、シルトの薄層を挟む		26.30	50/23	20	14	16/9									27
28	-24.14	28.30	1.90			灰細砂	下部、少量のシルトを含む		27.23	9/30	3	3	3									28
29							均質なシルト 部分的に細砂をパイプ状に含む		28.29	10/30	3	3	4									29
30							-3.1m付近、少量の細砂を全体に含む		29.30	18/30	6	6	6									30
31	-27.14	31.30	3.00			暗青灰シルト			30.30	50/25	14	22	14/5									31
32							部分的に粗砂多い 所々、細礫を含む		31.30	50/14	37	13/4										32
33	-26.44	32.60	1.30			灰砂			32.25	50/14	11	26	13/5									33
34							礫径2~5mm程度 含水量は多い		33.14	50/25	20	13	7									34
35	-30.34	34.50	1.90			灰礫混り粗砂			34.00	40/30	20	13	7									35
36	-31.04	35.20	0.70			灰粗砂	所々、細礫を含む		34.25													36
37							砂は細砂からなる		35.30													37
38																						38
39																						39
40																						40
41																						41

土質柱状図 (No.3)

調査名 名古屋国際会議場第2期整備地盤調査委託

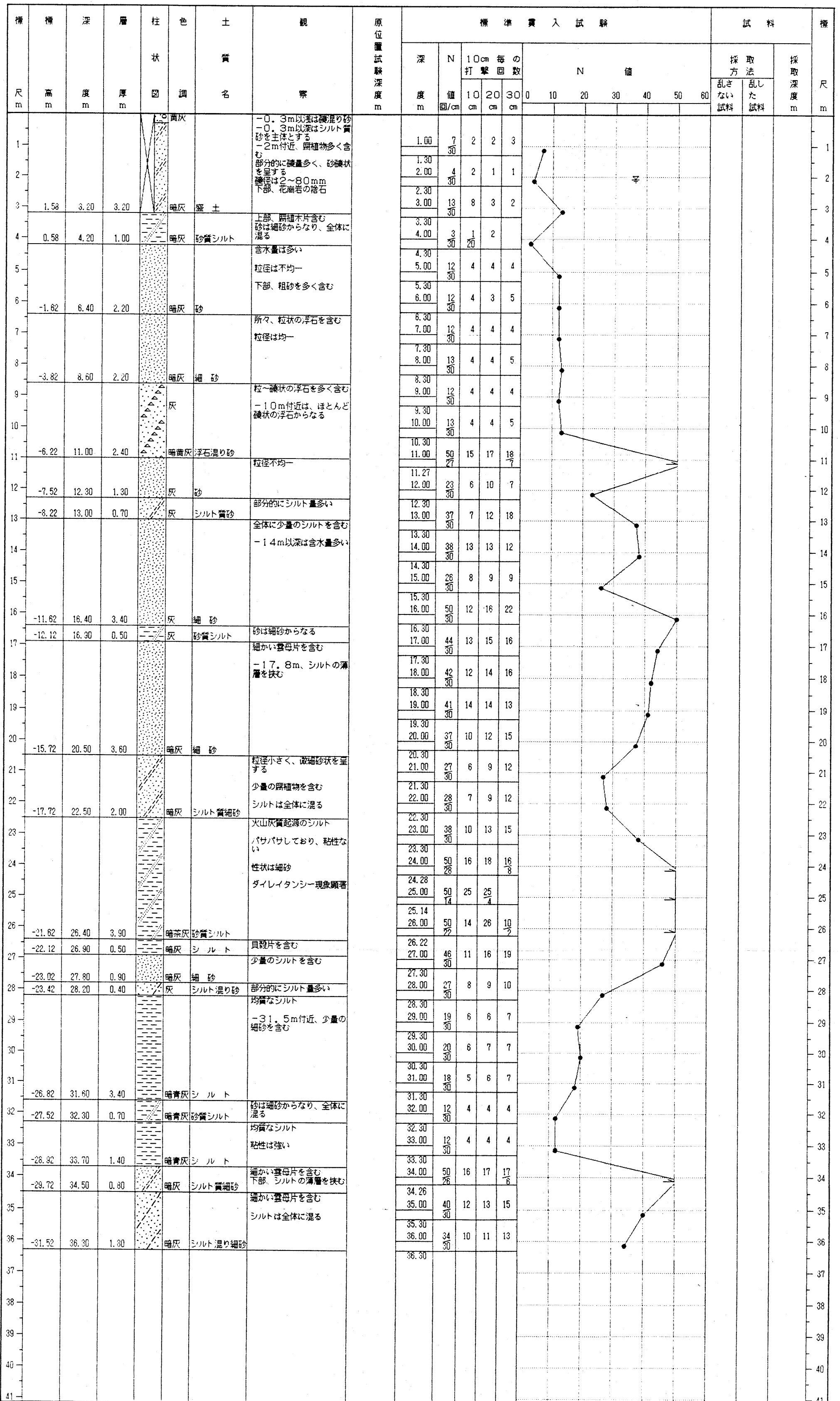
調査地 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

調査年月日 平成3年9月13日～3年9月19日

標高 NP +4.78 m

孔内水位 GL -2.10 m

技術者 高瀬孝之



土質柱状図 (No.4)

調査名 名古屋国際会議場第2期整備地盤調査委託

調査地 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

調査年月日 平成3年9月6日～3年9月10日

標高 NP +4.50 m

孔内水位 GL -3.50 m

技術者 安藤光人

標尺	深	層厚	柱状図	色調	土質名	観察	原位置試験深度 m	標準貫入試験										試料		標尺		
								深	N	10cm毎の打撃回数			N 値						採取方法		採取深度 m	
m	m	m						m	回/cm	10cm	20cm	30cm	0	10	20	30	40	50	60	乱さない試料	乱した試料	m
1						0～1.6m間は砂礫を主体とするコンクリート片等の瓦礫を含む																1
2						-2.0m迄は砂質シルト		2.00	21/30	6	7	8										2
3	0.90	3.60	3.60		盛土			2.30														3
4	0.60	3.90	0.30		砂礫	礫径2～20mm 腐植木片を含む		3.00	14/30	3	5	6										4
5						不規則に砂を含む 臭気強い		3.30	5/30	2	1	2										5
6	-1.10	5.60	1.70		砂質シルト			4.00	5/30	2	1	2										6
7						所々、粒～礫状の浮石を含む		4.30	5/30	1	2	2										7
8	-3.20	7.70	2.10		細砂	下部、浮石量多い		5.00	5/30	1	2	2										8
9	-3.55	8.05	0.35		シルト	少量の細砂を含む		5.30	16/30	4	5	7										9
10						火山灰質で、微細砂状を示す		6.00	39/30	9	14	16										10
11	-5.30	9.80	1.75		細砂			6.30	27/30	5	8	14										11
12	-5.70	10.20	0.40		シルト	粘性は強い		7.00	17/30	5	5	7										12
13	-6.30	10.80	0.60		細砂	粒径は均一		7.30	27/30	5	8	14										13
14	-7.20	11.70	0.90		シルト	少量の腐植物を含む		8.00	11/30	2	3	6										14
15						粒径は均一 含水量は多い		8.30	17/30	5	5	7										15
16	-12.10	16.60	4.90		細砂			9.00	4/30	1	2	1										16
17	-12.50	17.00	0.40		砂質シルト	-16m付近 少量のシルトを含む		9.30	11/30	2	3	6										17
18						砂は細砂からなる 含水量は多い		10.00	4/30	1	2	1										18
19						-17m付近、少量の腐植物を含む		10.30	22/30	5	7	10										19
20	-15.10	19.60	2.60		細砂	下部、少量のシルトを含む		11.00	33/30	10	11	12										20
21						所々、腐植物を含む		11.30	41/30	13	14	14										21
22						粒径小さく微細砂状を呈する		12.00	22/30	7	7	8										22
23	-18.90	23.40	3.80		シルト質細砂	シルトは全体に混る		12.30	27/30	5	10	12										23
24						-22.6m付近、シルトの薄層を挟む		12.60	49/30	12	16	21										24
25	-20.90	25.40	2.00		砂質シルト	火山灰質起源のシルト		13.00	50/24	12	26	12/4										25
26						バサバサしており、粘性ない		13.30	50/18	22	28	8										26
27	-21.95	26.45	1.05		シルト	ダイヤランシー現象顕著		13.60	6/30	2	2	2										27
28						貝殻片を含む 粘性は強い		14.00	19/30	5	7	7										28
29	-23.10	27.60	1.15		細砂	含水量は多い		14.30	4/30	1	2	1										29
30						部分的に少量のシルトを含む		14.60	4/30	1	1	2										30
31	-25.30	29.80	2.20		シルト	均質なシルト		15.00	7/30	2	2	3										31
32						-28.2m、砂をパイプ状に含む		15.30	10/30	3	4	3										32
33	-26.20	30.70	0.90		砂質シルト	砂は細砂からなり、全体に混る		15.60	12/30	4	4	4										33
34						所々、砂の薄層を挟む		16.00	21/30	6	7	8										34
35	-27.95	32.45	1.75		シルト	上部、少量の細砂を含む		16.30	34/30	7	11	16										35
36						腐植物を含む		16.60	40/30	9	13	18										36
37	-31.20	35.70	3.25		シルト質細砂	腐植物を含む 部分的に少量の細砂を含む		17.00	9/30	3	3	3										37
38								17.30														38
39								17.60														39
40								18.00														40
41								18.30														41

土質柱状図 (No.5)

調査名 名古屋国際会議場第2期整備地盤調査委託

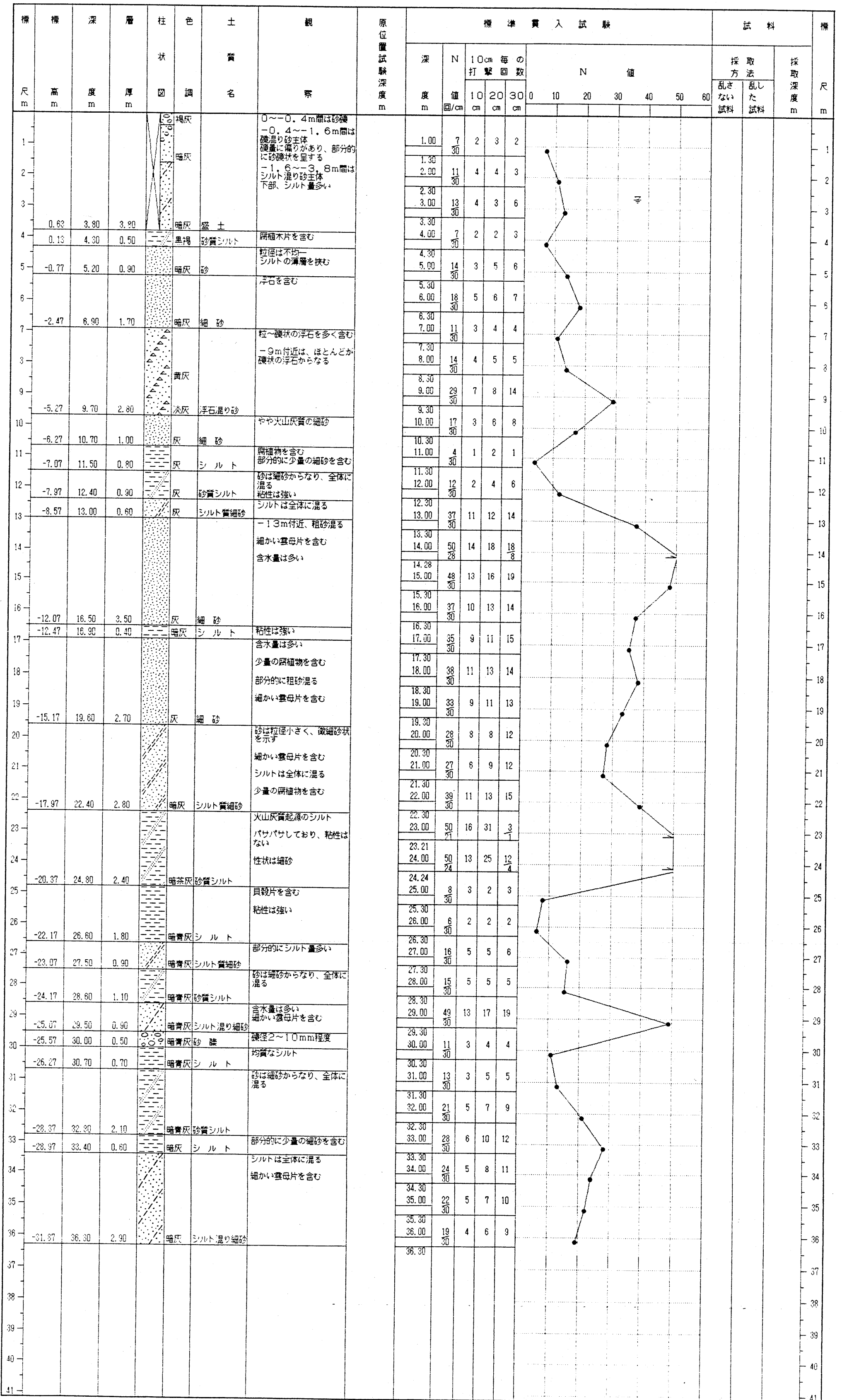
調査地 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

調査年月日 平成3年9月6日～3年9月10日

標高 NP +4.43 m

孔内水位 GL -2.70 m

技術者 浜田泰治

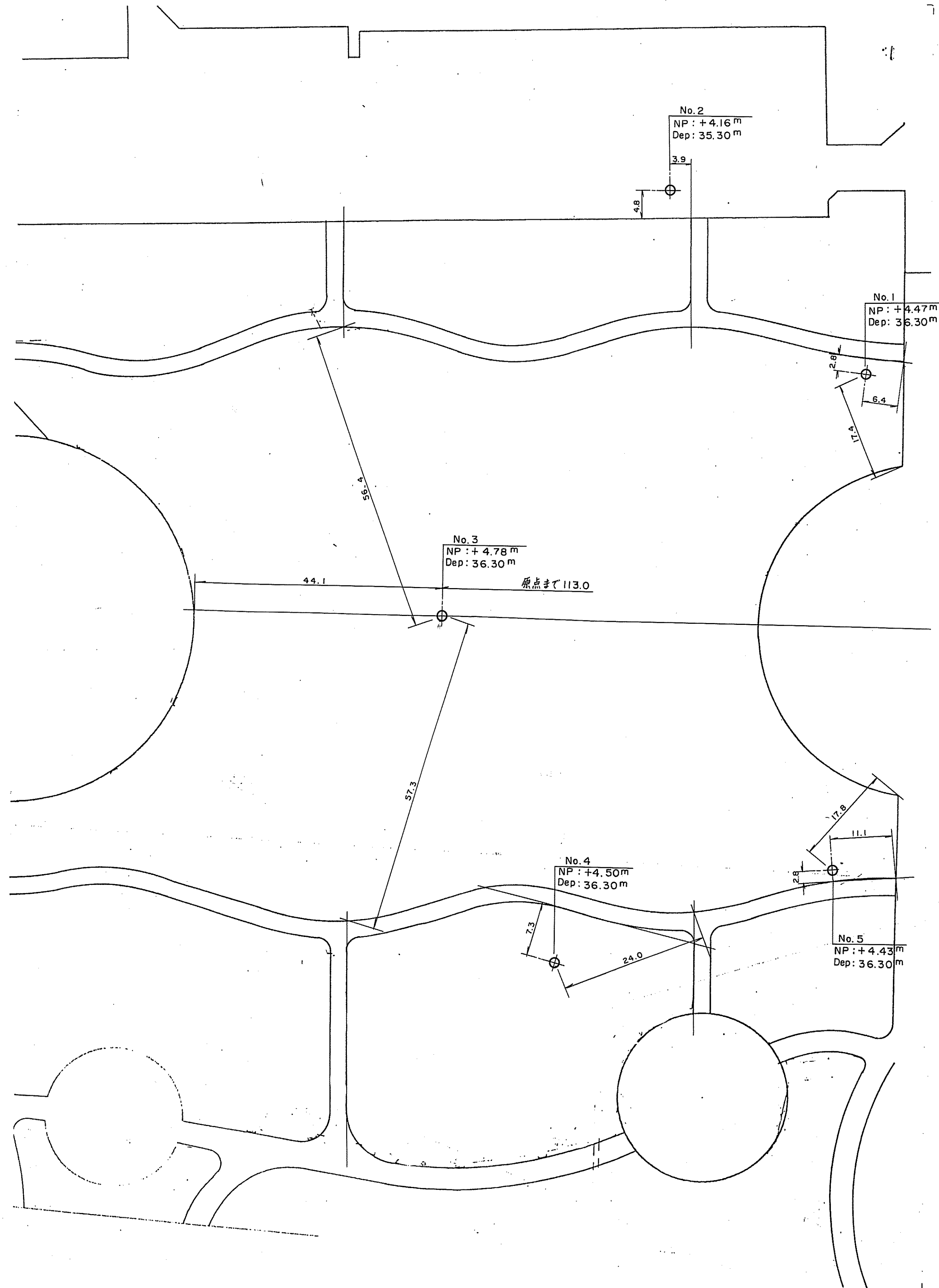


付図-1 調査地点位置図

詳細位置図 縮尺 1/500

凡例

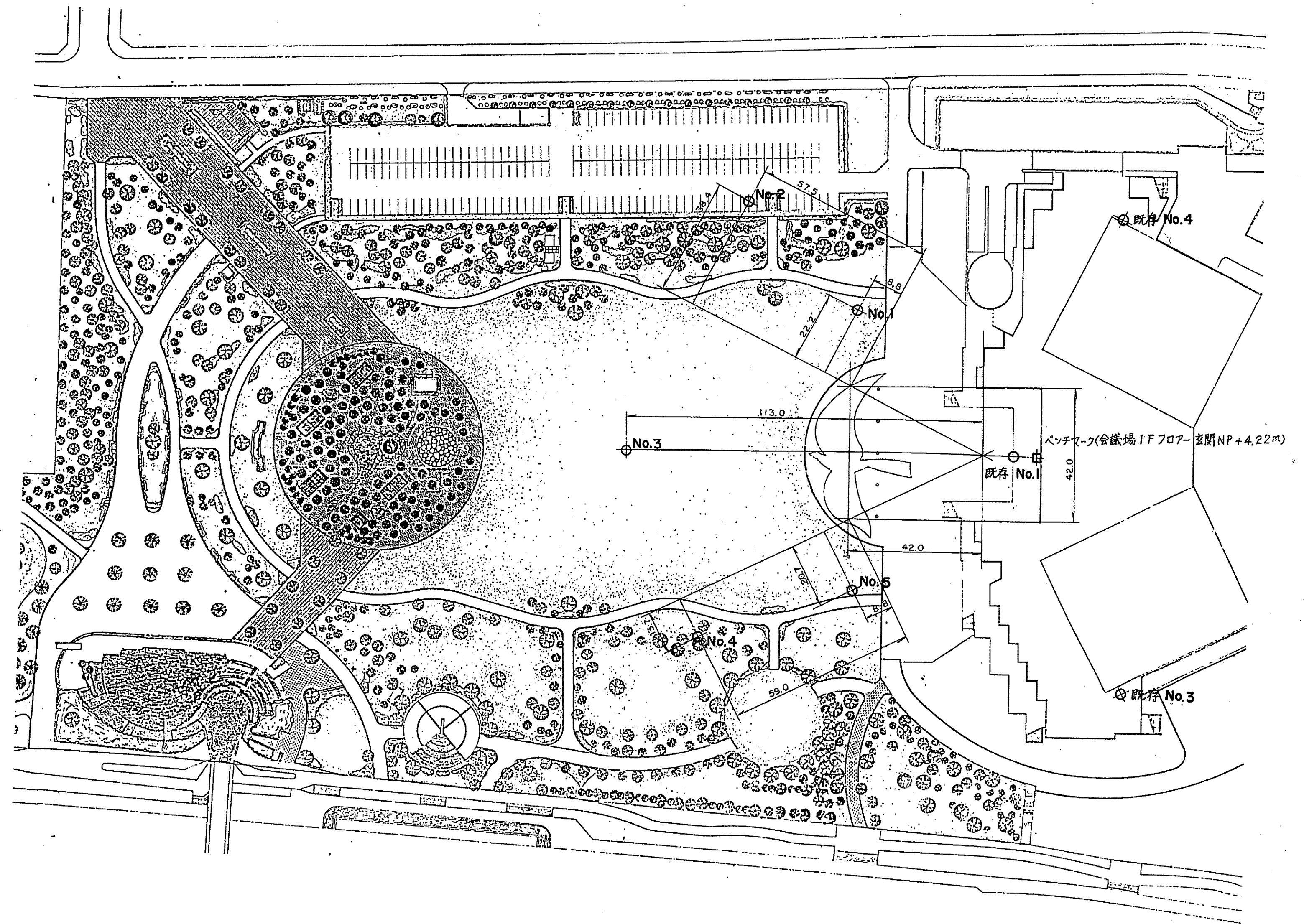
⊕ ボーリング位置



位置図 縮尺 1/1000

凡例

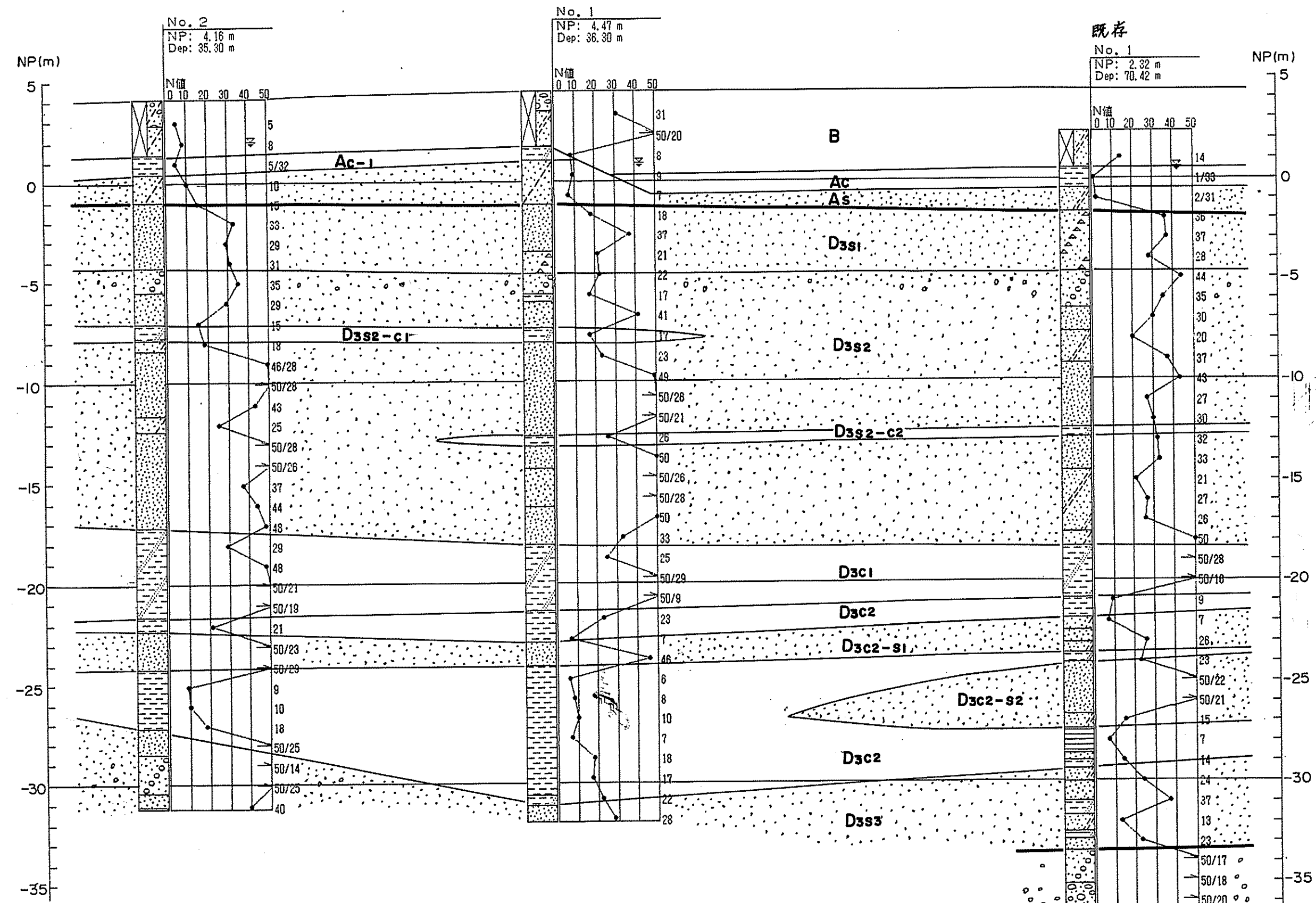
⊕ ボーリング位置
 ⊕ ベンチマーク位置



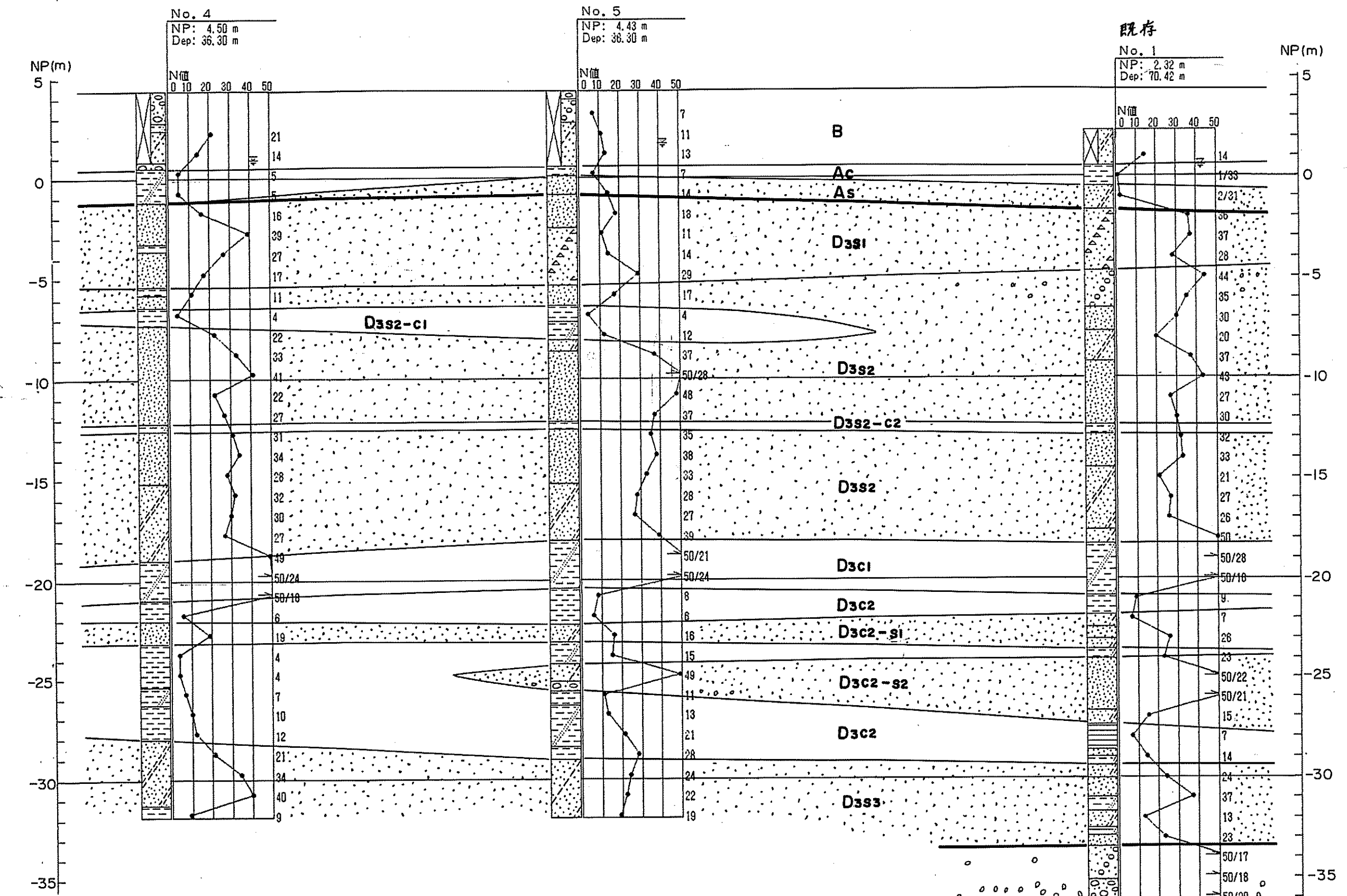
図面名称	名古屋国際会議場 第2期整備地盤調査委託 付図-1 調査地点位置図		
図面番号	全3葉の内 1号	縮尺	詳細位置図 1/500 位置図 1/1000
製作年月	平成3年9月		
製作	東建地質調査株式会社		

付図-2 土層断面図

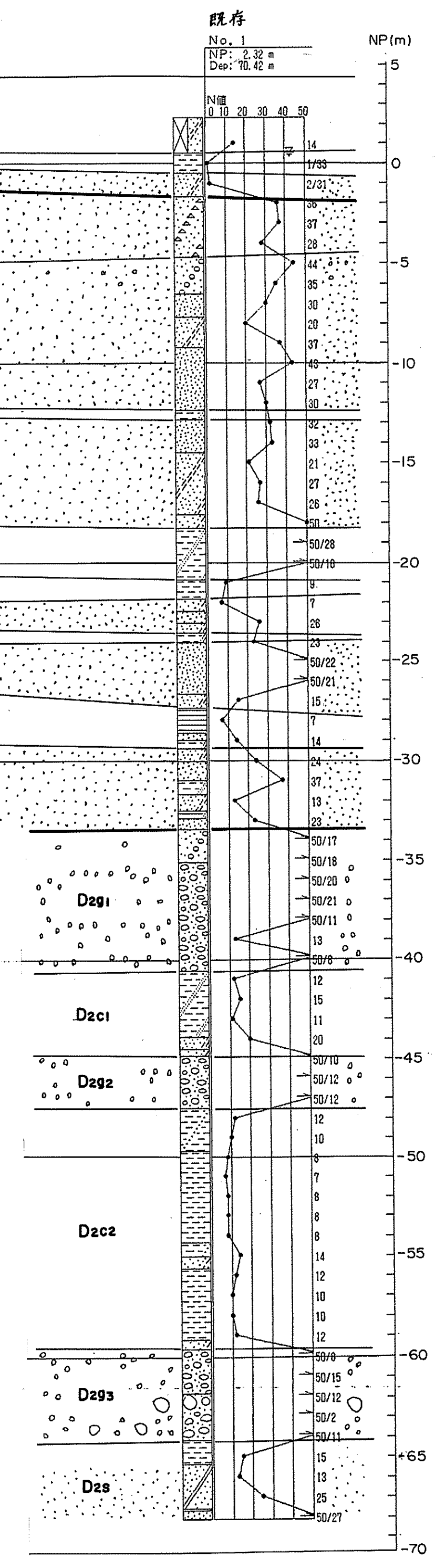
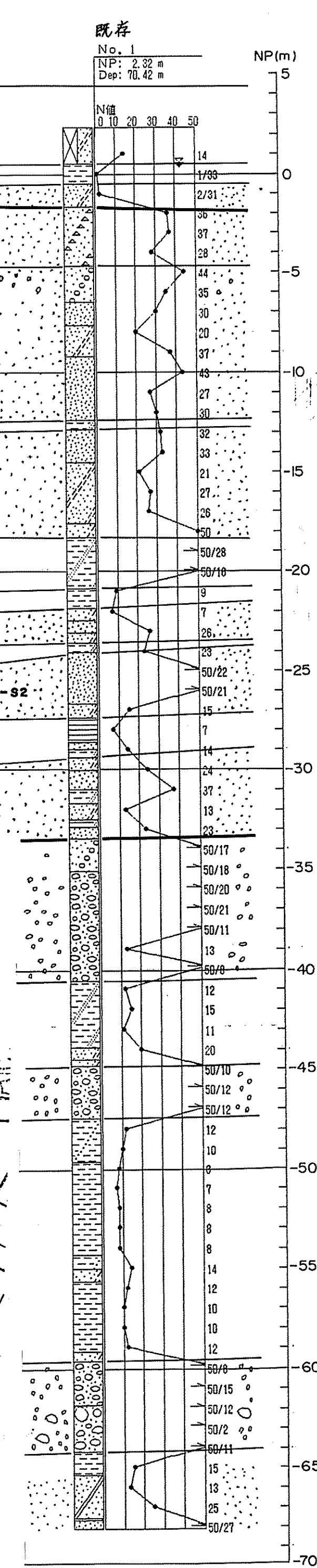
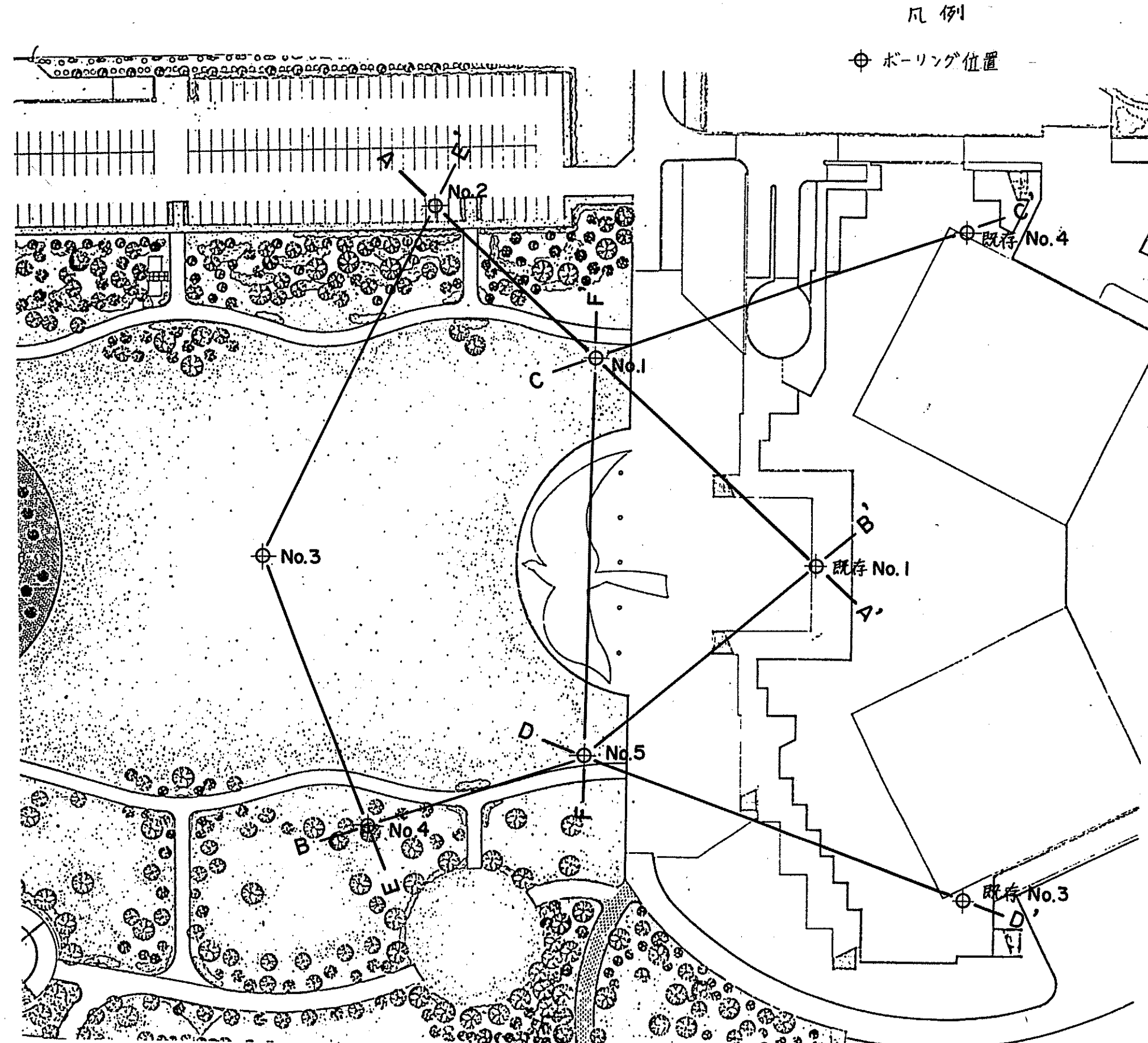
A-A' 断面図



B-B' 断面図



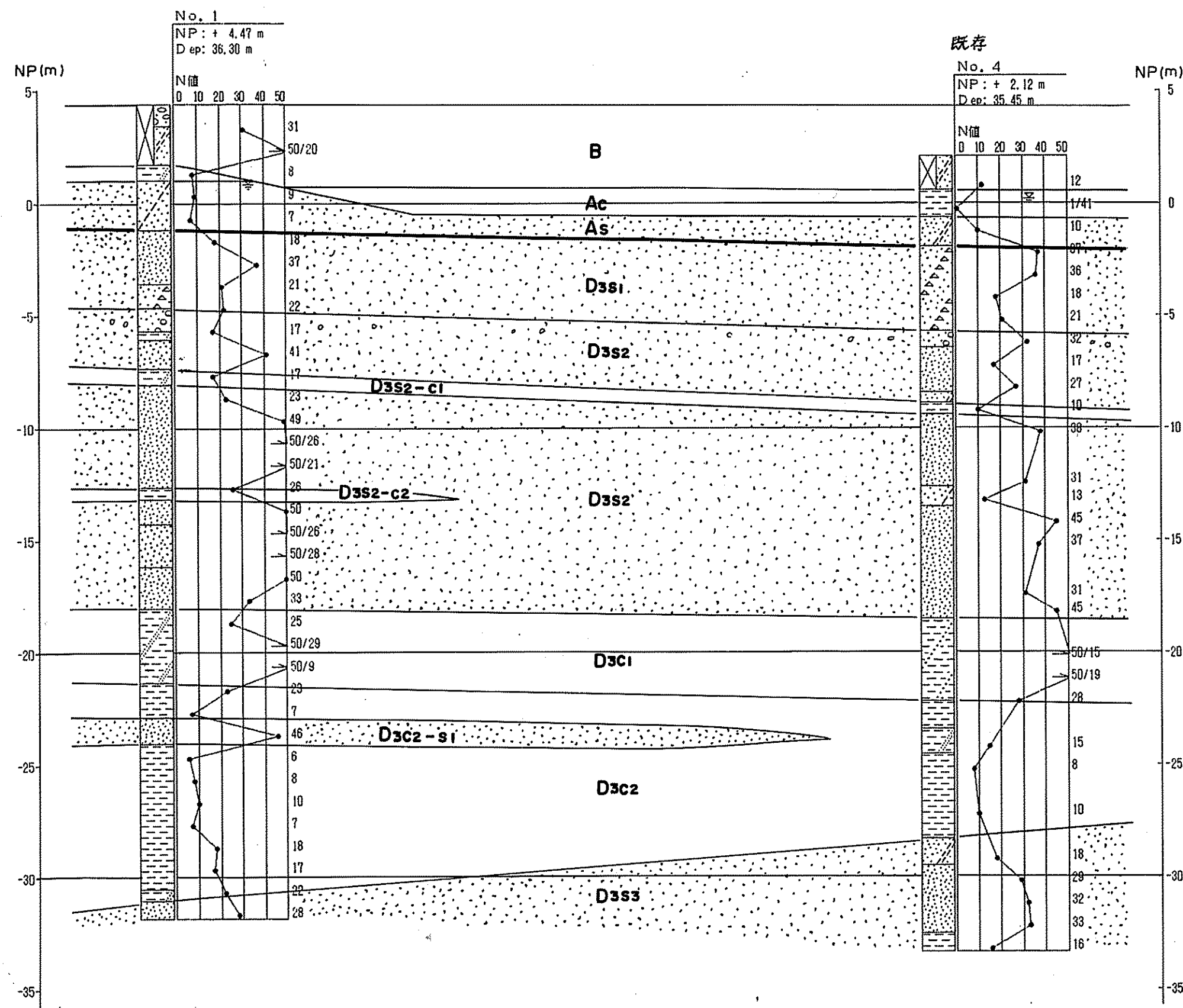
断面位置図 縮尺 1/1000



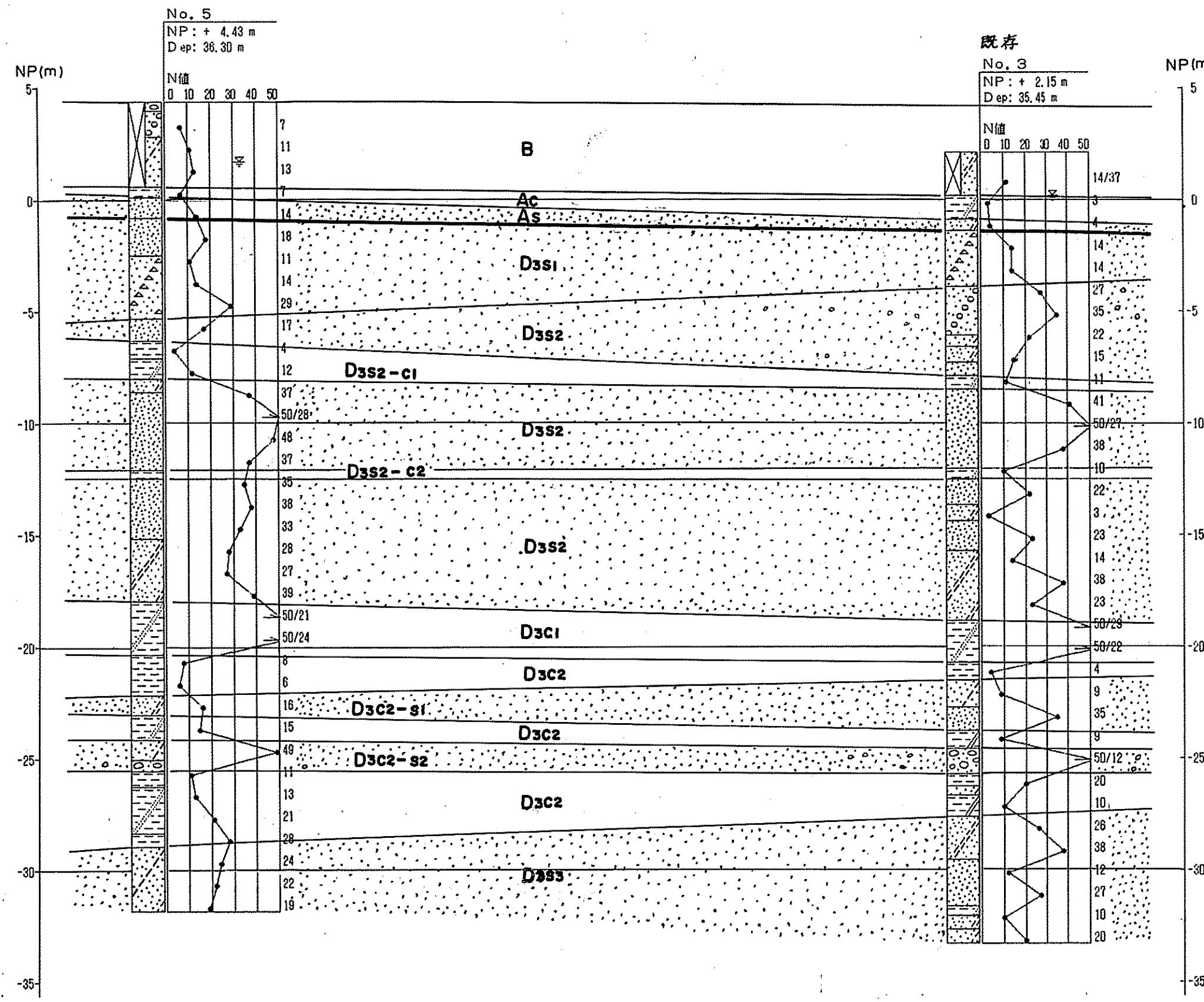
図面名称	名古屋国際会議場 第2期整備地盤調査委託 付図-2 土層断面図		
図面番号	全3葉の内 2号	縮尺	断面図 縦1/200横1/500 断面位置図 1/1000
製作年月	平成3年9月		
製作	東建地質調査株式会社		

付図-3 土層断面図

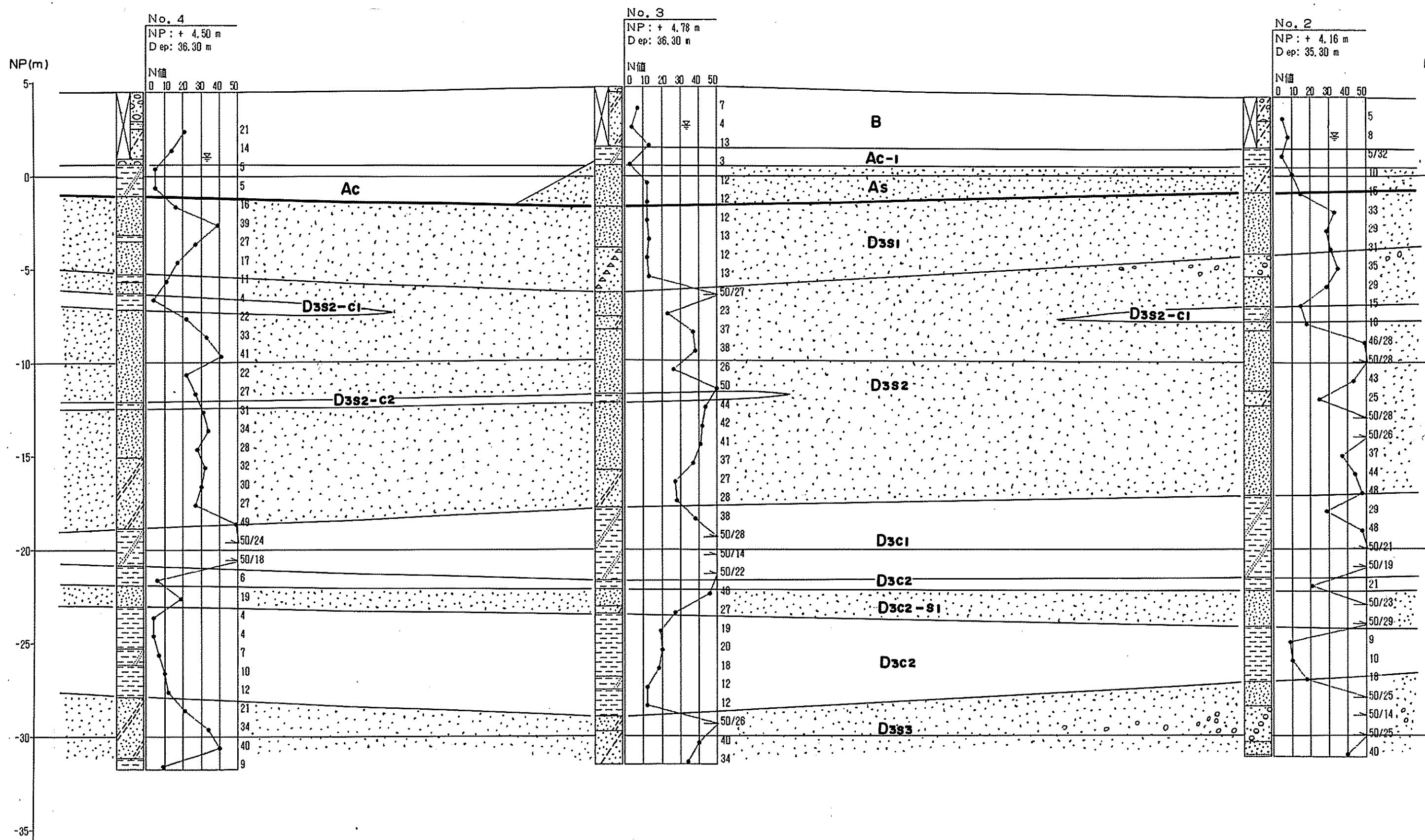
C-C' 断面図



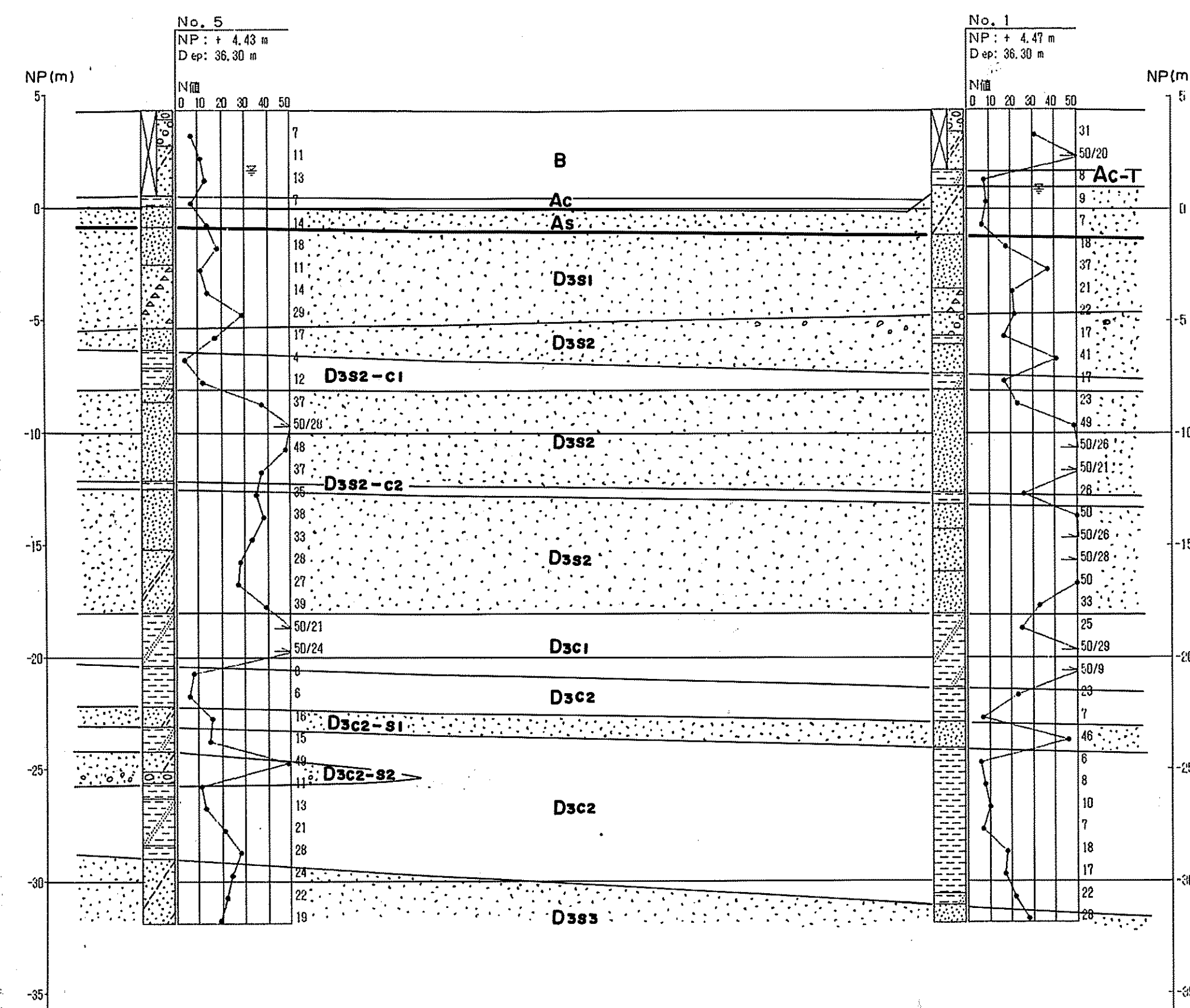
D-D' 断面図



E-E' 断面図



F-F' 断面図



凡例

時代	地層名	土層記号	土層名	記号
第四紀 沖積世	沖積層	B	盛土	上部は砂礫主体で瓦礫を含む。下部はシルト混り砂主体。 NP+1m前後に分布する。旧水田を形成する粘性土層で、シルトを少し砂質シルトがある。 NP±0m付近に分布する粘性土層。旧池の堆積物である腐植木片と腐植土質がある。 所々腐植物とシルト混り砂と主体とする。含水量多し、締り具合は緩い。
		Ac-1	粘性土層	
		Ac	粘性土層	
第四紀 洪積世	熱田層	As	砂質土層	浮石を含む細砂～砂がある。下部は浮石の量が多い。 上部は細礫を含む砂～粗砂。中部は細砂。軟地帯下部の下部ではシルト質細砂と主体とする。 NP-7m-8m付近にレンズ状として分布する。シルトを少し砂質シルトがある。 NP-12m-13m付近にレンズ状として分布する。シルト～砂質シルトがある。薄層であるが連続性は良い。 火山灰質起源のシルトがある。粘性は無い。バツバツしており、ダルイアン現象は顕著である。 熱田層下部に相当する粘性土層。上部は貝殻片下部は腐植物を含む。シルト～砂質シルトがある。 NP-23m付近にレンズ状として分布する。細砂と主体とし、比較的連続性は良い。 NP-25m付近にレンズ状として分布する。細砂及び砂礫と主体とする。 シルト質細砂の礫混り粗砂まで分布し、土質変化が激しい。砂とシルトの層を挟む。
		Dss1	砂質土層 (浮石混り)	
		Dss2	砂質土層	
		Dss2-c1	粘性土層 (レンズ状)	
		Dss2-c2	粘性土層 (レンズ状)	
		Dsc1	粘性土層	
		Dsc2	粘性土層	
		Dsc2-s1	砂質土層 (レンズ状)	
		Dsc2-s2	砂質土層 (レンズ状)	
		Dss3	砂質土層	
八尋層	八尋層	D2g1	砂礫層	(既存資料)
		D2c1	粘性土層	
		D2g2	砂礫層	
		D2c2	粘性土層	
		D2g3	砂礫層	
D2s	砂質土層			

柱状図記号

	盛土		粘土混り
	粘土		粘土質
	シルト		シルト混り
	砂		シルト質
	砂礫		砂混り
			砂質
			礫混り
			浮石混り

図面名称	名古屋国際会議場 第2期整備地盤調査委託 付図-3 土層断面図		
図面番号	全3葉の内 3号	縮尺	断面図 縦 1/200 横 1/500
製作年月	平成3年9月		
製作	東建地質調査株式会社		